

## 特別活動部会

### 県研究主題

望ましい集団活動を通して、児童一人ひとりの自主的、実践的な態度の育成と豊かな人間関係をはぐくむ指導の充実と評価の工夫・改善

## 提案 1

提案者 森川 雅子 (横浜地区)

### <研究主題>

特別活動における「確かな学び」とは

### 1 提案内容

新学習指導要領を見据えて、育成を目指す資質・能力を明確にして指導と評価を行い、自分たちの力で活動を進め、人間関係を形成し、生活をつくる力を育てたいと考え、研究主題を設定した。そして、年間を通して教員の意図的、計画的な指導の下、毎月行う学級のキャラクターの記念日を祝う集会活動を通して取り組んだ。

#### (1) 活動実践

「『ゴーゴークローバーさん6さい入学パーティ』をひらこう」 小学校1年  
みんなでプログラムを決め、全員で役割分担をし、パーティを開き、振り返りを行うという一連の学習過程を学級のキャラクター「クローバーさん」の記念日を祝う集会活動を通して実践した。

##### ① 活動に向けての手立て

ア 確かな学び「自発的、自治的な活動を積み重ね、経験を生かして活動する」「他者と協働する活動を通して人間関係づくり、生活づくりを行う」「活動を見通し、振り返り、学んだことを日常生活に生かす」をつけることで特別活動のねらいを達成していく。

イ 「問題の発見・確認」「解決方法の話合い」「解決方法の決定」「決めたことの実践」「振り返り」という一連の学習過程を繰り返す。

ウ 一つの活動の中で、各学習過程のどの段階でどのような資質・能力が培われるか明らかにする

##### ② 考察

集会活動を積み重ねることで児童自身が活動を進める力を育ててきた。その結果、児童の思いや願いを生かした活動を展開することができ、児童は活動に対する充実感、次の活動に向けての意欲をもつことができた。

### 2 協議内容

提案に対する質疑・応答・協議と、協議の柱をもとにしたグループ別協議を行い、全体で共有した。

#### (1) キャラクターについて

学級のキャラクターを作り、その記念日の集会を繰り返し行う活動はとてもよい。学級目標との関係はどうか。児童は、キャラクターの中に自分たちを重ね、目標に向けてがんばることでキャラクターも一緒に成長すると捉えていた。

(2) 教員の指導・関わりについて

- ① 初めて行う活動なので、話し合いの仕方、順序立てて活動することなど丁寧に指導した。準備段階では、休み時間などに児童と一緒にいて声かけをしたり、係ごとに呼んで助言をしたりした。児童のつぶやきを拾い、それを返すことで、児童はヒントを得、自主的に活動するようになる。
- ② 他者と協働する場面としての係になると思うが、いろいろな児童と関わっていたのか。いろいろな友達と関わらせるために、いろいろな係をやるように指導したり、個別に声かけをしたりして取り組ませた。
- ③ 自分だけでなく、友達、学級全体に対して振り返りを書いている所がすばらしい。休み時間や朝の会などに活動後の聞き取りから始め、文字が書けるようになったら、自分がかんばった所を書いていき、ペアで見せ合う、グループで見合うなど段階を追って指導した。

(3) グループ協議から（新鶴見小学校の実践の中で児童が身に付けた資質・能力とは）

① 知識及び技能

学級会や集会に向けての準備など繰り返しの活動によって、話し合いの進め方、参加の仕方、思考の仕方（合意形成・意思決定）、活動に向けて見通しを持ったり、振り返ったりする力、集団活動の中で一人ひとりが役割を果たす力が付いた。

② 思考力・判断力・表現力等

振り返りによって他者を認め合う力、計画を立てて活動し、活動しながら工夫して考え、さらに活動する力、自分や他者のよさを生かしながら、進んで協力、協働できること、児童同士でがんばりを伝え合い認め合うことができるようになった。

③ 学びに向かう力、人間性等

年間を通して集会活動を設定し、それを積み重ねることによって、集団としての意識の育ち、クラスへの帰属意識、よりよい生活を作っていこうとする力や課題に取り組もうとする力がついた。プラスの振り返りをする、認め合いがあることで次の活動に結びつく。

3 まとめ

- (1) 育てたい資質・能力は何かということを教員がきちんと把握し、それを児童に身に付けさせるためにどのような活動をするかが大切である。カリキュラムをもとに学級活動を通して6年間でどのような児童を育てるのか、各学校で取り組んでほしい。
- (2) 新学習指導要領では、児童に学び方をきちんと身に付けさせるために、学習過程が例示されている。この活動を通して児童に身に付けさせたい力は何か、それをどのように身に付けさせるか（どのような学習過程を行うか）が大切になる。
- (3) 活動の見通しを持ち、同じような活動を繰り返すことで解決の仕方を学ばせる。（主体的な学び）また、活動後の教員の話や振り返りによって、その後の学級生活がどのくらい豊かになったのかが重要である。振り返りのときに深い学びにつながる。

## &lt;研究主題&gt;

子どもたちが主体的に取り組む特別活動のあり方

## 1 提案内容

学級活動を通して『子どもたちが主体的に取り組む特別活動のあり方』をテーマに研究を進めた。まず、『主体的』とは、①課題に気付く②クラスの課題に共感する③自分たちで考えたり、行動したりすることとした。

実践するにあたって、児童の課題としては、素直な子が多いが指示を待って行動しながら教師の出方をうかがっているようなところがあった。そこで、自分達で考えて自分達で行動する意識付けから始めようと考えた。そのためには、自分の考えの持たせ方、伝えさせ方、議題の選び方、集団での合意形成の仕方を学習する必要があると考えた。

## (1) 研究テーマに迫るための手立てと工夫

学級活動において、実践するにあたり、「環境を整える」ことと「教員の支援や助言」を次のように考えた。

## ① 環境を整える

## ア 学級コーナーをつくる

議題ポストの設置、学級会の年間予定や行事を掲示する。

## イ 学級会ファイルをつくる

自分の考えを残すために一人一冊ずつファイルをつくる。

## ウ 時間をつくる

朝の会や帰りの会、給食の時間、短冊やワークシートに記入する時間を確保する。

## エ 輪番制にし、全員参加を目指す

司会グループ、計画委員などを全員が経験できるようにする。

## オ 座席

コの字型にし、考えが伝え合えるようにする。

## ② 教員の支援や助言

## ア 提案理由を明確にさせる

話し合いの柱がずれた時には、提案理由を振り返らせる。

## イ 事前に自分のワークシートに整理させる

発信が苦手な子や、自身の持てない子への手立てとする。

## ウ 話し合いの進め方を提示する

いつも同じ流れで話し合いに臨めるようにする。

## エ 話し合いの段階を視覚化する

意見を「出し合う」「比べる」「決定する」を黒板に掲示する。

## オ 多数決に頼らない合意形成を目指す

多数決で決めても良い場面と話し合いで決めるべき場면을助言する。

## (2) 研究実践 「5年1組レベルアップ大作戦～合言葉を決めよう～」

本時の実践では、Y君の困り感から学級会を行った。Y君は、学級が特別教室へ移動した後、一部の児童がふざけているため活動するまでに時間がかかってしまうことに対して不満があった。(課題発見)

そこで、「いつも何かを始める時になかなか始められず、活動時間が短くなってつまらないから」を提案理由に学級会で話し合いを行った。意見を「出し合う」の段階では、チームワークや団結をキーワードに挙げる児童が何人かいた。「比べる」の段階では、「お手本になる6年生になろう」という合言葉でまとめられた。「決定する」の段階では、提案理由と合言葉が合っていないという意見も出たが、最終的には、Y君も納得し、みんなの考えをまとめた合言葉に決定した。

## (3) 研究の成果と課題

成果としては、学級で困っている児童がいると、その思いを共有し、解決することができた。また、司会を輪番制にすることにより、自分たちで声をかけ合って役割分担をすることもできたことは大きな成果であると言える。

課題としては、議題設定の難しさを感じた。また、児童主体の学級会を進めるにあたり、教員の助言のタイミングが難しい面もあった。今後も、皆が納得できる話し合いを経験させることが必要であると考えている。

## 2 協議内容

「特別活動を通して児童が身に付ける資質・能力とは」

### (1) 知識及び技能

○ 学級会の進め方、話し合いの仕方、役割分担や考えを伝えるための工夫、みんなで決めていくことよき、多数決に頼らない決定の方法、提案理由をもとに考えること。

### (2) 思考力、判断力、表現力

○ 共通の目的をもって合意形成を図る、個人の問題ではなく全体の問題としてとらえること、よりよい問題解決のために解決方法をみんなで考えること。

### (3) 学びに向かう力、人間性等

○ 自主的にグループで活動、児童主体の学級会、他の問題に向かう態度、経験することによって次への意欲、自分たちの生活をよりよくしようとする態度、自分で課題を解決しようとする力。

## 3 まとめ

実践を通して、司会や話し合いの経験ができた。教員の思いである「自分の思いをもつこと、他者の考えに共感できること、理解しようとする気持ち、実践していく力」は、次期学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」にもつながっている。児童自身が課題を見つけ解決し、新たな課題を発見することは、「主体的な学び」と言える。また、他者の意見に触れやすくする工夫は、「対話的な学び」の重要なポイントである。そして、他教科で身に付けた力を集団及び自己の問題の解決のために活用していくことが「深い学び」に関わる場所である。

「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、これらのポイントを踏まえ、人間関係と信頼関係を構築する必要がある。そのためには、年間の様々な行事を通して、多様な児童がいることを前提に自主的・自治的な活動が必要である。本実践を通して、特別活動が、教育活動全体の中で主体的・対話的で深い学びの実現や学級経営の充実に大きく寄与する場所である。